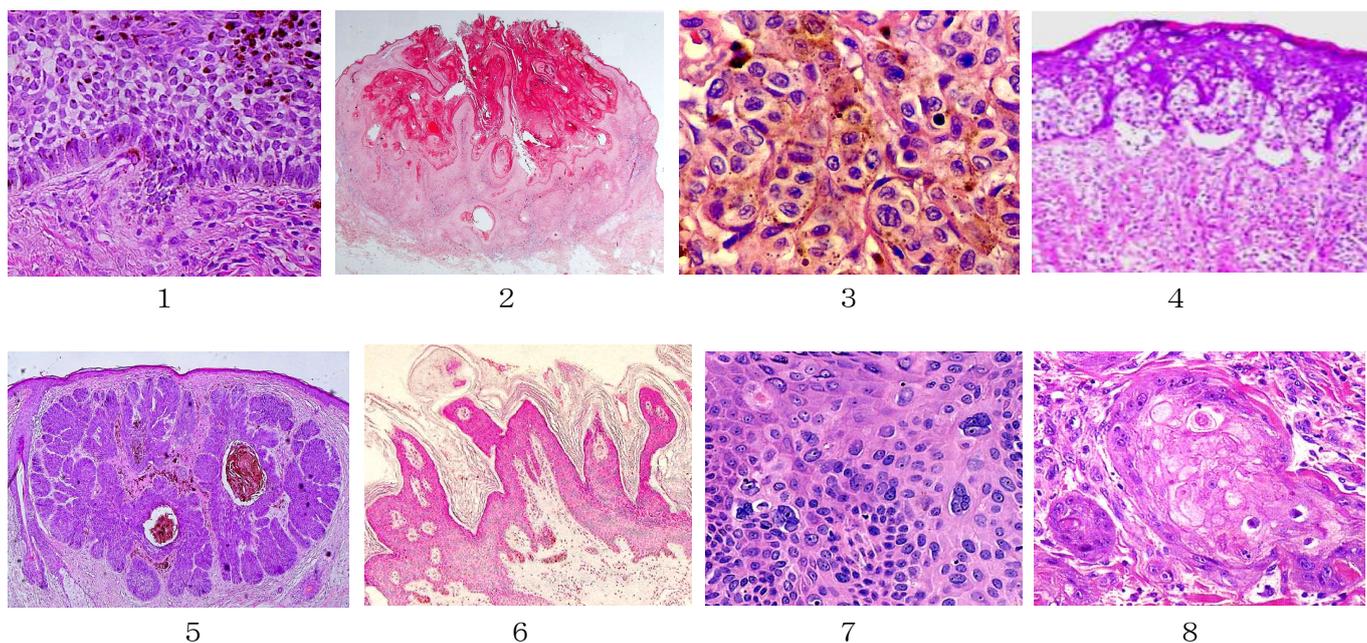


令和元年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題(2020/02/04)

臨床写真



組織標本写真



各文章を読み()内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患の臨床写真から写真(ア～コ)を [] に、組織標本(1～8)を選んで < > に記入しなさい。(写真と組織は同一の患者さんのものではありません)。問3,7,8は、()内に適切な答を書きなさい。注意:きたない字や読めない字は、採点から外します。

1.脂漏性角化症は、高齢者の皮膚良性腫瘍としては多い腫瘍であるが、短期間に、この皮膚腫瘍の多発と、()を伴うとレーザー・トレラ徴候と呼ばれ、()の合併率が高い。この腫瘍の臨床写真は[]で、組織は< >である。視診では皮膚悪性腫瘍である()や()との鑑別診断を要する場合がある。

2.ケラトアkantomaは、従来より皮膚良性腫瘍の1つとして分類され、自然退縮することもあるとされていたが、()との鑑別診断が難しい場合のある皮膚腫瘍である。
最近の診療ガイドラインでは、()の治療を勧めている。この腫瘍の臨床写真は[]
で、組織は< >である。

3.グロムス腫瘍は、押さえたり、触ると()という症状が特徴的である。

4.乳房外Paget病は、主に()に生じることの多い腫瘍であるが、()や
()として始まり、後に湿潤・びらん性局面を呈する。進行すると局面内に()が
みられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では()や()と誤診されることがある。
この腫瘍の臨床写真は[]で、組織は< >である。

5.基底細胞癌は()に生じることの多い腫瘍で、転移はほとんどない。しかし局所侵襲性は強く、
()まで浸潤する例もある。この腫瘍の臨床写真は[]で、弱拡大組織像は< >である。基底細胞癌の辺縁では組織写真<1>の細胞配列が特徴的で、これを()と呼ぶ。
また、最近では、ダーモスコピーでの診断が有用で、特徴的な()の所見があると診断できる。
そのダーモスコピー写真は[]である。

6.悪性黒色腫は、皮膚以外にも生じることがあるが、日本人では()に生じる割合が多い。母斑細胞母斑との鑑別診断では、この腫瘍の特徴をABCDEの頭文字で皮疹を表現することもあるが、このBの意味は、日本語では()である。

この腫瘍の組織診断のための生検では、なるべく()とすべきである。

また、ダーモスコピーでの診断が有用とされており、その写真は[]である。この腫瘍の臨床写真は、
[]で、組織は< >である。

最近では治療薬剤の開発が進み、根治切除不能な場合は、摘出組織の()の有無によって、薬剤の使い分けを検討し()や()を用いるようになってきている。術後や薬物治療中の経過観察には()検査を半年～1年毎に行うことが多い。

7.虚血性足病変の進行分類で、間歇性跛行がみられる場合は、()分類の()度とする。
足に潰瘍・壊疽を伴う場合は、()度とする。虚血性潰瘍が生じることが多いのは足のとくに()
の部分に多いのが特徴である。治療としての動脈狭窄部の血管内バルーン拡張術は、再閉塞が多いため、同時に
()を挿入したり、血管外科での()手術を選択する場合もある。

糖尿病が基礎疾患にある場合の足の潰瘍は、これが合併する()によって生じる場合の臨床写真は[]で、治療は()である。一方、合併する()によって生じる場合の臨床写真は[]で、治療は()であるが、進行して潰瘍が拡大する場合は()が必要になる場合もある。

8.皮膚腫瘍摘出後などに行う真皮縫合は、縫合創を()する縫合法である。

9.植皮は採皮の方法で大きく分けて2つあり、1つは分層植皮で、この長所は()しやすい点である。しかし()という短所がある。分層採皮の採皮部は、()によって治癒していく。植皮の失敗の原因には()や()がある。

3年生()番 氏名()